

東 御 市 立 柵 津 小 学 校



(1) 学級数 14 クラス

(2) 児童数 男子 165 名 女子 128 名 計 293 名

(3) 職員数 25 名

(4) 学校紹介

<http://www.netsu-es.com/>

本校は、上信越高原国立公園の一部をなす烏帽子岳・湯ノ丸山の裾野に広がる広大な南斜面に位置し、標高 682m。縄文時代の遺跡が発見されていることからわかるように、古くから人々が住みついたこの地域は、江戸時代には旗本直参領となり、江戸との交流が盛んであったため、現在も東町・西宮二つの歌舞伎舞台が残っている。特に東町の舞台では、本校の歌舞伎クラブが毎年春に上演している。

上信越自動車道が開通し、東部湯の丸 I C が設けられ



今年の演目「土蜘蛛退治」

たことから、それまで純農村地域ともいえる地域が、大型商店や工場が進出し大きくその様相を変えた。昨年、校区内で生を受け本校でも教鞭をとったことのある郷土の誇る水彩画家、丸山晚霞画伯の記念館が東御市文化会館（サンテラスホール）に併設された。

本校は、「正しく ゆかしく たくましく」という教育目標を掲げている。正しく（真理の追究）…進んで学習に取り組み、自分の思いを表現して追究しよう。ゆかしく（豊かな心）…人や物、生命、ふるさとを大切にしよう。たくましく（心身の健康）…自分から進んで学習、運動、仕事を最後までやりぬこう。本年度の重点として、「一人ひとりが輝く、楽しい学校」を目標に、①わかる楽しさの実感 ②友と一緒にいる楽しさの実感 ③乗り越える楽しさの実感を子どもたちに獲得させるよう努めている。

(5) 大会テーマの受け止めと研究のねらい

自分の考えを発表したり、友だちの考えを聞いて自分自身の考えを問い返したりすることによって、表現する力・考える力などが高まっていくものと思われる。子どもたちは、その過程で学ぶ喜びや楽しさを感じることでだろう。

子どもたちの生きて育つ地域を教材として取り上げたいと考える。子どもたちは、自分との関わりを感じながら事象や人に問いかけ、問題解決のために積極的に学習を進めていこう。そして、そのような活動を通して地域を見る目が深まり、地域の一員としての自覚や誇りが身につくだろう。そのことは、本大会主題の「広い視野を持ち、新しい文化を築く心豊かな人間の育成」につながるとされる。そこで、本校社会科の研究テーマを「自らの課題を持ち、深め合うことができる社会科学習のあり方 ～地域素材の教材化を通して～」と設定した。「深め合う」ために、友だちと自分の社会認識のずれや自分の社会認識と社会事象のずれを明確にし、子どもたちが持っている見方や考え方を揺さぶる話し合いの場のあり方を明らかにしていきたいと考えている。

(6) 日常的な活用

○ パソコン室（平成 18 年 5 月機器を更新）

パソコン室には、児童用パソコン 35 台、児童用プリンター 9 台が設置されている。インターネットを使つての調べ学習や学習のまとめを中心に使われている。子ども用の検索サイトを使つて、書籍では調べにくい最近の情報や写真等を資料として使うなどの利用の仕方をしている。調べ学習を効率的に行うためのウェブ・サイト検索の方法を指導することも大切なことと考えている。また、様々な教材サイトを使つて、紙と鉛筆を使つてのドリル学習を苦手とする児童の計算スキルを高めるといった使い方もしている。



○ スマートボード・プロジェクター

昨年度導入したスマートボードは、地図と地図を重ね合わせることで変化を読み取らせたり、ゲーム感覚での学習に利用したりしている。しかし、まだ、十分に利用できている状態ではない。

○ NHKデジタル教材

校内LANが整備されており、各教室でインターネットを利用できるので、NHKのデジタル教材を利用した学習も行っている。プロジェクターが低・高学年に各 1 台ずつ、その他に 2 台あり、複数教室での利用も可能となっている。特に低学年の道徳や高学年の社会科・理科学習の利用頻度が高い。

(7) 研究を推進してきたの現時点での課題

4 年生の「住みよいくらしをつくる 水はどこから」の単元で、授業研究会を行った。そこから見てきたことの中で、特に次のことを課題として研究を進めていきたい。



○東御市では、上水道として湧き水や地下水を利用している様子を教材化した。これからも、単元のねらいに合わせて、児童が身近に感じ学習意欲をかき立てられる地域教材を開発していきたい。

○学習課題は、友だちと自分の社会認識のずれや自分の社会認識と社会事象のずれをもとに設定をした。しかし、児童の意識にそった学習課題になっているのか吟味する必要がある。児童の意識にそった学習課題を設定することで、追究のエネルギーが高まり互いの考えを深め合うことへつながると考える。

○視聴覚機器の効果的な利用の仕方を明確にする。視聴覚機器を利用することは、児童の意欲を高めたり、学習内容を理解したりするために有効だと思われる。教材研究をする中で、願う児童の姿をめざし、どの場面でどのような視聴覚機器を利用し、どのような教材を提示すればより効果的であるか探っていききたい。